

# 今後の展開

---

No	検討項目	目指す方向性	これまでの取組み 【引き続き検討する事項等】
①	全体最適の検討	(1)材料を最少とする部分最適の設計から、構造、材料配合、施工計画のシームレスな全体最適設計(品質、コスト、時間)を可能とする仕組みを構築する。 (2)技術開発を促すための手法を検討する。	(1)土木構造物設計ガイドラインの改訂 (2)技術提案・交渉方式や新技術導入促進などの契約方式の促進
②	コンクリート打設の効率化	高密度鉄筋などによるコンクリート締め固め作業の負担を軽減できる高流動コンクリートを使いやすくするための環境を整える。 また、スランプ等の仕様規定を見直し、合理的な検査のあり方を構築する。	・流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン策定(スランプ値の変更8cm→12cm)
③	鉄筋の組み立て作業の効率化	手間のかかっている鉄筋の継ぎ手作業や定着部の合理化を図るため、機械式定着工法等を一般化し、現場で使いやすくするための環境を整える。	機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドラインの策定 機械式鉄筋継手工法のガイドライン策定
④	現場作業の工場製作化	鉄筋のプレハブ化等の一般化により、現場作業の工場製作化を図る。	プレハブ鉄筋に関するガイドライン策定
⑤	プレキャストの大型構造物への適用	長スパン桁や大型ボックスカルバート等、従来現場打ちでしか行われていなかった構造や部材について、継ぎ手部の課題を解決し、プレキャストを活用できる環境を整える。	・プレキャストコンクリート構造物に適用する機械式継手工法ガイドライン ・コスト以外の工期短縮や安全などを適正に評価する手法の検討
⑥	品質規定の見直し	受注者の自由度を高めるための仕様の見直しを検討する。品質を確保しつつ、検査を合理化するための手法を検討する。	試験結果等のデータ化・共有化による検査の合理化の検討
⑦	各工程の改善に向けた方策の検討	調達、製作、運搬、組立等の各工程の改善に向けた方策を検討する。	【サプライチェーンマネジメントの導入に向けた検討】

# 今後の検討項目(案)

- 引き続き検討が必要な項目について、取組み方針(案)を立案
- これまでに議論がなされていない、施工(製作)・検査段階における生産性の向上について、新たに取り組む

検討項目	取組み方針(案)	検討期間の目標
プレキャスト製品の大型化構造物への適用(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計段階における比較検討項目の適正な評価方法の確立</li> <li>・経済性以外のコスト換算が確立されていない項目について、適正に評価する手法の基準化</li> </ul>	短期
生コン情報の電子化(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配合計画、伝票等のデータ化によるペーパーレス(JIS規定の見直し)</li> </ul>	短期
情報の共有による効率化【継続】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造、施工、検査データ等の一元管理による検査の合理化に向けた監督・検査基準の改定</li> </ul>	中・長期
コンクリート工における3次元データの利活用【継続】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3次元データ(BIM/CIM)の活用による、出来形や品質管理など、新たな施工管理基準の策定</li> </ul>	短期
プレキャスト製品の品質管理【継続】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次製品等の品質確保に向けた、検査項目や管理体制等の確立</li> </ul>	中・長期
革新的技術・工法の導入【継続】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな技術の適用に向けた基準類の整備</li> <li>・施工(製作)～検査データの取得による、サンプル調査から全数調査など品質管理の高度化に向けた管理基準等の策定</li> </ul>	短期

※土木学会などにおける調査・研究開発との連携が必要

※他分野における技術との連携も視野に検討